

電信通り

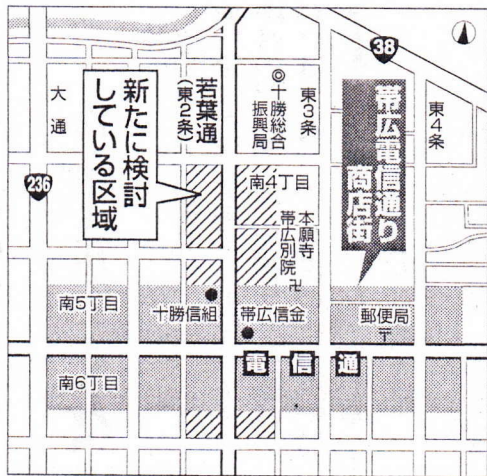
商店街1.3倍拡張

コミュニティー施設建設へ

電信通り商店街振興組合(長谷渉理事長)は、東2条通を中心に、商店街を南北に約180㍎、東西に約125㍎拡張する計画を進めている。同組合が区域を拡張するのは初めて。将来的には、今回拡張を予定するエリア内に、電信通を含む帯広市東地区全体を対象とした高齢者や障害者、子育て世代や地域住民が気楽に立ち寄ることができるコミュニティー施設の建設を目指す。7日の同組合臨時総会で定款の一部変更について協議・了承され、市から認可されれば、本格的に動き出す予定だ。

東地区 共生の場

帯広市商店街振興組合連 模を変更するのは「帯広で合会によると、商店街の規一は珍しいのではないかと



している。同商店街は現在、電信通を中心にして、国道236号から東西は東4条と5条の間、南北は南5、6丁目にまたがる区域で、

スイーツや金融機関、肉店など38店が加盟している。新たに加わるのは、現在の商店街区域から、南北は、南3丁目通までの約155㍎と、南6丁目の通りまでの約22㍎。東西は東2条通(若葉通)を中心とした約125㍎。認可後の商店街の面積は現在の約1.3倍になる。同商店街は今年度まで、商店街活性化を目指し、空き店舗を活用したスイーツ店の誘致や、障害者を雇用した店舗を開店するなど、複数の事業を展開してい

る。2013年度は、今回のコミュニティー施設づくりに向け、道経済産業局の「地域商業再生事業」の補助金を活用し、電信通を含む帯広東地区でマーケティング調査を実施。450世帯から回答を得て、今年3月までにまとめた。

その結果、地域の見守りサービスなどの総合窓口や、民間企業との連携、交流スペースの確保、子育てや障害者の活動拠点などの役割を持つ施設像を導いた。

ただ、実現には現状の商店街エリアには適当な建設用地がないことから、場所の確保に向けて、拡張に動いた形だ。新たな組合員には、ベンチャー企業など2団体が加入予定。

同組合の高橋正章専務理事は、「計画の詳細はこれから。加盟店舗の増加も期待している。お年寄りや障害のある人なども共生できる商店街を目指したい」と話している。

(山岡瑠美子)